

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		設置認可年月日 平成13年3月30日	校長名 安藤 廣美		所在地 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606		
設置者名 学校法人麻生塾		設立認可年月日 昭和26年3月12日	代表者名 麻生 健		所在地 〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程	作業療法学科 (昼間部)			平成25年文部科学 大臣告示第3号	—	
学科の目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科は、教育基本法に則り、学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実発展に貢献するために作業療法士を養成する事を目的とする。						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技
	3年 昼間						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		106人	0人	6人	26人	32人	
学期制度	■前期:04月01日～09月30日 ■後期:10月01日～03月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする		
長期休み	■夏季:08月13日～08月15日 ■秋季:08月23日～09月02日 ■冬季:12月25日～01月04日			卒業・進級 条件	(進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)且つ学科試験・実習評価が60点以上をもって合格、単位履修、ならびに各学年の教育に基づいたものとする (卒業)全単位履修並びに欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内とする		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 随時個人面談実施し、必要に応じて支援体制を継続している。			課外活動	■課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア ■サークル活動: 有		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 医療機関・施設 ■就職指導内容 就職事前指導をスタートして、履歴書の添削および面接指導等を個別に随時行っている。 ■卒業生数 34人 ■就職希望者数 30人 ■就職者数 30人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.2%			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に係る平成29年5月1日時点の情報)		
	■その他 ・進学者数 1人 ・国家試験不合格 3名 (平成28年度卒業者に係る 平成29年5月1日 時点の情報)				資格・検定名	種	受験者数
		作業療法士		②	34人	31人	
<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄</p>							
中途退学 の現状	■中途退学者 7名 平成28年4月1日時点において、在学者110名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者103名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 進路の変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時担任・学科長面接実施。保護者との連携における情報交換			■中退率 6.4%			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する 東日本震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金、校納金、寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 6人						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 ・全国専門学校リハビリテーション協会						
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoiuku.ac.jp/arc/subject/ot/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。

具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始次期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、常に変化する保健・医療・福祉分野の動向を見据えて、養成校の独りよがりな教育とならないように現状に合った教育の水準を担保すべく中核となる組織である。

ここでは多角的な視野からの検討評価をもとに、今後のリハビリテーションを担う人材の育成のあり方を追求することを目的とし、教務会議の一環として年2回開催される。

またこの委員会の検討をもとに、さらに下部組織としてのカリキュラム会議において、より柔軟な実践能力向上に向けたカリキュラム改善に反映されるものとする。

特に各科目の習熟の集大成である「臨床実習」につながる授業の内容や「臨床実習」自体の内容や評価項目について検討し改善をおこなう。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
安藤 廣美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長	H29/4/1～H31/3/31	
大熊 一博	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行	H29/4/1～H31/3/31	
河元 岩男	専門学校麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科 主任	H29/4/1～H31/3/31	
竹中 祐二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 主任	H29/4/1～H31/3/31	
灘吉 享子	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚士科 主任	H29/4/1～H31/3/31	
田中 裕二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科 副主任	H29/4/1～H31/3/31	
大内田 由美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 副主任	H29/4/1～H31/3/31	
星子 隆裕	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚士科 副主任	H29/4/1～H31/3/31	
黒木 洋美	日本リハビリテーション医学会 認定医 (宮崎大学附属病院)	H29/4/1～H31/3/31	②
日高 幸彦	医療法人清幸会 三原城町病院 リハビリテーション科 主任	H29/4/1～H31/3/31	③
山下 智弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション科 医師	H29/4/1～H31/3/31	③
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	H29/4/1～H31/3/31	③
比嘉 早苗	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 理学療法士	H29/4/1～H31/3/31	③
毛利 あすか	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 主任	H29/4/1～H31/3/31	③
秋山 絵吏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士	H29/4/1～H31/3/31	③
前田 知美	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士	H29/4/1～H31/3/31	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回9月と3月に実施

(開催日時)

平成28年度 第1回 平成28年 9月06日 18:00～20:00
平成28年度 第2回 平成29年 3月29日 17:00～19:00

平成29年度 第1回 平成29年 9月13日 18:00～20:00
平成29年度 第2回 平成30年 3月28日 17:00～19:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

作業療学科では、臨床実習について、各記録について指導を受け持つセラピストが、日々の振り返りを行う際に、無駄な時間が多くなり、学生のレポート作成等に支障が生じる等の課題があるとの意見が出た。今後、経過記録についてはSOAPを用いることで改善していくこととした。また、SOAPに変更するための学生に対する導入教育について意見交換が行われたが、現在、作業療法士協会の臨床実習指導ガイドライン見直しが進んでおり、パブリックコメントを募集しているので、その完成に合わせて、今後の取り組みを決定していくこととした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび作業療法の実際を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、作業療法士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。
本校の臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・作業療法計画立案・作業療法実施および記録報告等の一連の作業療法を実践する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

作業療学科では教育課程編成会議において、協力病院から臨床実習方針についての意見を伺い、今年度の内容について十分議論し、実習方針を決定している。
実習開始前には実習先医療機関の実習指導者と担当教員とで実習指導者会議を行い、前回の実習結果報告と反省を行い、表出した課題を今回の実習計画に活かしている。また、学校の方針や実習施設での特徴を踏まえた実習指導についての情報交換や学習成果の評価方法、基準の統一を図るための協議を行い、各実習指導者と担当教員による実習生への包括的な指導を実現している。
実習前には連携している実習施設より指導者を招聘し実習の在り方や内容について講演をいただき、またOSCEでは臨床実習施設の作業療法の先生方から実技指導を受けている。
実習期間中は担当教員が随時電話連絡や実習施設の訪問を行い、相互で実習進捗を確認するとともに学習成果の評価について協議し、その内容を実習生にフィードバックしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	臨床の場で、患者の評価、作業療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、作業療法士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての作業療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。
「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。
併せて作業療法士協会等にて専門分野の研修も同様に教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、定期的に受講させる。この研修はその内容を他教員へ報告することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

(1) 臨床研修

目的: 臨床から離れ、永く養成教育に携わる際の臨床との隔離を防ぎ、常に最新の知識と技術を持って成教育に当たることを目的とする。

概要: 各医療機関において毎週1回、医療機関の臨床現場のセラピストとともに臨床研修を行う。

(2) 第20回福岡県作業療法学会主催研修会

目的: 養成校教育をとりまく社会情勢の変化をとらえ、入学生の多様化、入学生の基礎学力の低下、「自ら学ぶ力」を育成することの要求等に対応するため、教員および組織の教育力を向上させる。

概要: 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

日程: 2016年2月13日

(3) 第50回日本作業療法学会

目的: 常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

概要: 日本作業療法士協会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

日程: 2016年9月9日

(4) 日本作業行動学会学術集会

目的: 養成校教育をとりまく社会情勢の変化をとらえ、入学生の多様化、入学生の基礎学力の低下、「自ら学ぶ力」を育成することの要求等に対応するため、教員および組織の教育力を向上させる。

概要: 日本作業行動学会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

日程: 2016年6月18日

(5) 第17回日本認知神経リハビリテーション学会学術集会

目的: 養成校教育をとりまく社会情勢の変化をとらえ、入学生の多様化、入学生の基礎学力の低下、「自ら学ぶ力」を育成することの要求等に対応するため、教員および組織の教育力を向上させる。

概要: 日本認知神経リハビリテーション学会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

日程: 2016年7月2日

(6) 第43回理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等講習会

目的: 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設の教員の養成、確保を図るために、現在養成施設に勤務している者に対して、より高度な知識及び技能を修得させ、併せてリハビリテーションの質の向上を資することを目的とする。

概要: 厚生労働省及び(公財)医療研修推進財団共催 教員講習

日程: 2016年8月22日

(7) 福岡県リハビリテーション専門職の介護予防指導者養成事業 基本編

目的: 養成校教育をとりまく社会情勢の変化をとらえ、入学生の多様化、入学生の基礎学力の低下、「自ら学ぶ力」を育成することの要求等に対応するため、教員および組織の教育力を向上させる。

概要: 日本認知神経リハビリテーション学会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

日程: 2016年10月10日

② 指導力の修得・向上のための研修等

(1) ID(インストラクショナルデザイン) I

講師: 岡村 慎一氏(全国専門学校教育研究会)

目的: インストラクショナルデザインを用いた体系的なカリキュラム、シラバスの開発方法を習得する。

内容: インストラクショナルデザインの概要、学習目標の明確化、効果測定と評価。

日程: 2016年9月7日 9:00~17:30

(2) カウンセリング I

講師: 廣田 哲成氏(日本交流分析協会 准教授)

目的: 学生面談、学生指導における基本的知識を習得する。(新任教員対象)

内容: カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得。

日程: 2016年6月15日 16:00~17:30

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

(1) 日本作業療法学会

目的: 常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

概要: 日本作業療法士協会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修

(2) 全国リハビリテーション学校協会作業療法士部会

目的: 常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

概要: 全国リハビリテーション学校協会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修

(3) 福岡県作業療法協会教育部主催 研修会

目的: 常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

概要: 全国リハビリテーション学校協会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

(1) カウンセリング I

講師: 廣田 哲成氏(日本交流分析協会 准教授)

目的: 学生面談、学生指導における基本的知識を習得する。(新任教員対象)

概要: カウンセリングにおける傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得。

日程: 2017年5月17日 16:00～17:30

(2) カウンセリング II

講師: 廣田 哲成氏(日本交流分析協会 准教授)

目的: ケーススタディを通して、カウンセリングの応用力を高める。

概要: ロールプレイングによるケーススタディで、個別面談の仕方を学ぶ。

日程: 2017年5月24日 16:00～17:30 5月25日 16:00～17:30

(3) メンタルヘルス

講師: 日本予防医学協会

目的: ストレス対処に関する基本的知識を習得し、学生指導に活かす。

概要: メンタルヘルスの現状、ストレスの要因とストレス反応、ストレスへの対処、相談機関。

日程: 2017年10月25日 16:00～17:30

(4) 全国専門学校経営研究会 研修

目的: 学校運営における実務に関する能力の修得・向上のための研修

概要: 全国専門学校経営研究会主催 教育や評価の方法論等の研修。

(5) 全国リハビリテーション学校協会 九州ブロック会 研修

目的: 入学生の多様化に対応するため教員の指導力を向上させる。

概要: 全国リハビリテーション学校協会主催 授業における専門領域の専攻分野における実務に関する指導力の修得・向上のための研修を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価活動を実施しマネジメントサイクルに乗せる為の年間計画の作成やコンプライアンス状況、自己点検・評価の妥当性を評価する現況調査によるエビデンスの確認については高い評価をいただいた。特に「学生の受け入れ募集」については他校との比較の上、誤解のない数値や国家試験の結果報告に対する高い信頼性が評価された。今後も継続していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
光田 真由美	作業療法学科保護者	H29/4/1～H31/3/31	PTA
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生（株式会社麻生 飯塚病院）	H29/4/1～H31/3/31	卒業生
松村 秀豊	福岡市東光区	H29/4/1～H31/3/31	地域住民
黒木 洋美	日本リハビリテーション医学会 認定医（宮崎大学附属病院）	H29/4/1～H31/3/31	有識者
日高 幸彦	医療法人清幸会 三原城町病院 リハビリテーション科 主任	H29/4/1～H31/3/31	企業
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	H29/4/1～H31/3/31	企業
比嘉 早苗	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 理学療法士	H29/4/1～H31/3/31	企業
毛利 あすか	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 主任	H29/4/1～H31/3/31	企業
秋山 絵吏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士	H29/4/1～H31/3/31	企業
前田 知美	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士	H29/4/1～H31/3/31	企業
永田 俊一	福岡県立武蔵台高等学校 主幹教諭	H29/4/1～H31/3/31	高等学校

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスメント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/arc/>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科昼間部) 平成29年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			心理学	心理学の基礎知識を習得する	1前	30	2	○			○			○			
○			生命倫理学	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討し、自己決定、自由、幸福、人権といった倫理学上の基本的な概念やそれに基づく様々な考え方を理解する。	1後	30	2	○			○				○		
○			情報処理	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を習得し、文書作成、表計算・グラフ作成・データ分析、スライド作成を効率的に行うことができる。レポート、サマリー、発表会資料の作成時に活用することができる。	1前	30	2	○			○					○	
○			統計学	記述統計の概要を中心に、統計学の基礎理論について講述する。また、適宜演習を行うことで、実際にデータを処理し、データの性質を説明する能力を身に着ける。	1後	30	2	○				○					○
○			医学英語	英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。同時に、生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。	1前	30	2	○				○					○
○			コミュニケーション学	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対し、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。	1後	30	2	○				○					○
○			接遇講座	医療従事者としての接遇の心構えを学ぶ。	1前	30	2	○				○					○
○			解剖学	人体の構造についての解剖学的知識を習得する。	1前	60	4	○				○					○
○			解剖学演習	人体の構造についての解剖学的知識を習得する。	1後	60	2		○			○					○
○			生理学	人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。	1前	60	4	○				○					○

○		精神医学Ⅱ	精神医学について、作業療法士として必要な知識の習得をおこなう。	2前	30	2	○			○			○
○		老年医学	老年学に関する基本的な医学知識（病態、診断、治療、リハビリ）の習得を目指す。	2前	30	2	○			○			○
○		リハビリテーション概論	医療についての考え方を知り、医療全般のしくみ、およびリハビリテーションについて学ぶ。	1前	30	2	○			○			○
○		保健医療福祉制度論	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。	2前	30	2	○			○			○
○		作業療法理論	・様々な体験を通して「作業」について理解する。 ・作業療法の基本的実践理論について理解する。	1前	30	2	○	△		○	△		○
○		基礎作業学実習Ⅰ	①作業療法で用いる様々な作業の基本的な知識と技術を習得する。 ②各作業を遂行するうえで必要な身体的および心理的機能を理解する。 ③各作業を遂行するうえでの周囲の人的および物理的環境との関係を理解する。 ④グループ学習を通して、自分自身についての理解を深める。	1前	60	2			○	○			○
○		基礎作業学実習Ⅱ	①作業療法における作業の必要性と意義について理解する。 ②作業分析の定義、目的、種類について理解する。 ③作業分析を実際に体験する。 ④基本的な指導法について理解する。 ⑤作業指導を実際に体験する。 ⑥作業の治療的な適用のしかたを理解する。	2前	30	1			○	○			○
○		作業療法概論	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。	1前	30	2	○		△	○	△		○
○		作業療法評価学Ⅰ	①作業療法プロセスにおける評価とは何かを理解する。 ②作業療法では、対象者のどのような情報を収集するのかを理解する。 ③作業療法特有の評価を演習することで、作業療法の視点を身につける。 ④評価によって得た情報を統合して考える事ができる。	1後	30	2	△	○	△	○			○
○		作業療法評価学Ⅱ	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。	2前	60	4	△	○	△	○			○
○		作業療法評価学演習	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。 ④収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける。	2後	60	2	△	○	△	○			○

○		身体障害作業療法学	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的介入方法を理解する。	2前	60	4	△	○	△	○	○				
○		身体障害作業療法学演習	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的介入方法を理解する。	2後	60	2	△	○	△	○	○				
○		発達障害作業療法学	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○			
○		発達障害作業療法学演習	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2後	30	1	△	○	△	○	○				
○		精神障害作業療法学Ⅰ	①精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を知る。 ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する。 ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する。 ④精神科作業療法の構造・要素を理解する。 ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○			
○		精神障害作業療法学Ⅱ	①精神障害作業療法の概略と作業療法の実践理論を理解する。 ②精神障害作業療法における評価とその視点を理解する。 ③精神障害作業療法のプロセスと構造、実践を理解する。 ④生活を支える視点と作業療法を理解する。 ⑤疾患別の作業療法実践について理解する。	2後	60	4	△	○		○	○				
○		老年期障害作業療法学	①高齢者・老年期の特性について理解する。 ②老年期障害のリハビリテーション、作業療法について理解する。 ③認知症とその作業療法について理解する。	2後	30	2	○			○	○				
○		高次脳機能障害作業療法学	脳疾患や脳外傷などに起因する、高次脳機能障害について基礎知識を学び、それを基に各症状に対しての検査、作業療法アプローチ技法を学ぶ。	2後	30	2	○			○	○				
○		義肢学	義肢（義手、義足）についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。	2前	30	2	△	○		○	○				

○		装具学	<p>①装具の目的と給付体系、装具両方における作業療法士の役割を理解する。</p> <p>②各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態的特徴を知る。</p> <p>③装具のチェックアウトの要点を学ぶ。</p> <p>④疾患に対する装具の役割を学ぶ。</p> <p>⑤装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。</p>	2後	30	2	△	○	○	○				
○		ADL支援学	<p>①福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。</p> <p>②福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。</p> <p>③福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。</p> <p>④疾患別における移動動作の指導および援助を実践することができる。</p> <p>⑤事例を通して作業療法プログラムを立案することができる。</p>	2後	60	2	△	○	△	○	○			
○		ADL	<p>①人の生活の中における日常生活活動の位置づけを理解する。</p> <p>②日常生活活動を遂行するための心身機能や影響因子について理解する。</p> <p>③身体障害領域で用いるADL評価について理解する。</p> <p>④疾患別の移動補助具について理解を深め、適切に使用することができる。</p> <p>⑤疾患別におけるセルフケア動作への介入の思考過程を知ることができる。</p>	2前	30	2		○	○	○				
○		作業療法セミナー	○Tとして中枢神経の機能解剖・局所疾患について学習する。	1後	30	2	○			○	○			
○		地域作業療法学	<p>①地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、地域作業療法の実際を知る。(身障)</p> <p>②発達障害領域での地域作業療法の歴史を振り返り、知識基盤および実践的方法論を整理し、クライアント(こどもと家族)中心、プロセス中心の作業療法を理解する。(発達)</p> <p>③精神障害領域での地域支援における作業療法の役割を理解し、その実際を知る。(精神)</p>	2後	60	4	△	○	△	○	○			
○		職業関連活動	<p>①職業の意義を理解する。</p> <p>②障害者の就労問題は社会全体の問題であることを理解する。</p> <p>③障害者雇用の現状を知る。</p> <p>④職業リハビリテーションの目的および関連職種との役割、法的支援について学ぶ。</p> <p>⑤職業リハビリテーションにおける○Tの役割および援助過程について学ぶ。</p> <p>⑥障害者が働いている現場訪問を通して、○Tが関わることを考える。</p>	2後	30	2	○			○	△	○		
○		評価実習	<p>担当症例について評価計画を立てる。</p> <p>評価を実施する。</p> <p>評価結果から全体像をまとめる。</p>	2後	120	2				○		△	○	

○		臨床実習Ⅰ	将来像を予測し、作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 リハビリテーションチームのリハビリテーションゴールを理解し、作業療法部門としての作業療法計画（長期・短期目標）を設定する。	3 前	400	8				○			△	○	○
○		臨床実習Ⅱ	短期目標達成のための作業療法プログラムを計画する。計画にそって作業療法を実施する。 対象者の状況変化に対応し、適宜再評価を行い、作業療法プログラムを修正する。 実習施設の作業療法部門の役割と特色を理解する。 作業療法士としての管理運営業務を学ぶ。社会人・職業人としての態度を修得する。	3 後	400	8				○			△	○	○
合計			54科目	2930単位時間（ 136単位）											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1 学年の学期区分	Ⅱ 期
	1 学期の授業期間	15週